

# SMART Wellness Town PEP MOTOMACHI



## ○プロジェクトの目的

本プロジェクト Smart Wellness Town PEP MOTOMACHI は、元気な子どもを中心にした健康まちづくり推進プロジェクトです。郡山市の医療を支えてきた小児科診療所の移転新築に伴い、郡山市本町のまちづくりの視点からのエリアづくりを行っています。小児科診療所は、地域材を利用し縦ログ構法による建物とし、旧病院跡地には、木造仮設（ログ仮設）を再利用した「子育て支援」「薬局」を設置し、エリア全体による本町活性化と、子供たちのためのエリアづくりをします。二つの建物をつなぐものとしてロハス（※1）の広場を設置し、子供達や地域の人が集まる公園とします。

（※1）ロハスとは、Lifestyles Of Health And Sustainability の頭文字を取ったもので「健康で持続可能な生活スタイル」を意味します。

# まちの中に広がるこどもの居場所

薬局と小児クリニックを、広場と道がゆるやかにつないでいます。  
2つの施設が連動して子どもたちや地域の人々の健康をサポートするエリアを目指しています。

○町の保健室として  
新しいクリニックは、アプローチを工夫し、子供向けのライブラリーを設置するなどして寄り付きやすさに配慮しています。「まちの保健室」として気軽に健康相談や、地域の人が立ち寄れるような存在を目指します。また、ロハス広場を活用し、薬局やカフェと連動した健康イベントを行うことで、街中の健康サポートの中核となるクリニックを目指します。

- 診療支援機能
  - ・薬局
  - ・健康相談
  - ・子育て支援
  - ・コワーキングスペース
- 子供の遊び場/多目的スペース
- まちなかの広場
- 駐車場



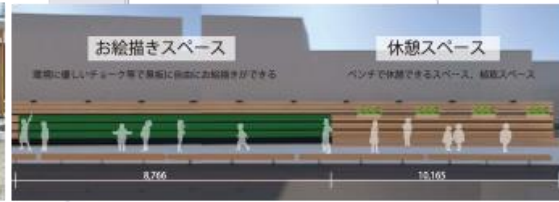
- 診療拠点
  - ・診療
  - ・健康相談
  - ・病児保育拠点
  - ・子育て支援
  - ・研究等

○ロハス工学による環境づくり  
ロハスとは、Lifestyles Of Health And Sustainability の頭文字を取ったもので、「健康で持続可能な生活スタイル」を意味します。まさにこれからの人類に求められる生き方です。日本大学工学部では、このような生き方を可能にするための工学を LOHAS工学と呼び、実験住宅などの様々な取り組みを行っています。

本プロジェクトは、日本大学工学部と産学協働し、ロハス工学の概念に基づいた計画を行なっています。新診療所については、地域材を活用し、ローテクな技術により地域林業に貢献します。薬局・子育て支援の棟は、東日本大震災の木造仮設住宅を再利用し、新たな建物として発展させました。その他雨水利用など様々なコンテンツを持続的に支援し、町の新しい拠点とします。



ロハス花壇：自然の浄化機能を活かしたエネルギー不要の排水処理システムを設置した花壇(参考写真：日大HPより)



ロハスの道イメージ

# 薬局 子育て支援

## 山口薬局+プレイノーション

1Fに小児クリニックと連携した薬局と2Fに子育て支援にも関連するコワーキングスペースが入っている。

建築物自体は、東日本大震災におけるログハウス仮設住宅を再利用したプロジェクトである。建物を本町通り側に寄せ、医院との間に建物に囲まれた子供達のためのポケットパークを作っている。

来院時や、イベントなどの際にも気軽に寄ることのできる場所となり、子供の病気以外の時にも子供達が集まり、子育ての拠点として、また町の保健室としての役割を持つことを目指している。



# 小児クリニック 菊池医院



外観



フリーアドレスゾーン



病児保育ゾーン



○健康的な空間 環境づくり  
 ・木を使用することは、木質空間の心理的なストレス軽減効果やシックハウスの低減などがあり、居心地のよい空間づくりの重要な要素となっています。  
 ・また、地震や災害にも安全 安心な建物としています。  
 ・エントランスや待合スペースでのロハス機能の可視化をはかっています。  
 ○フレキシブルな空間  
 建物中央部は、柱による区分けを行い、1Fは診察処置部門/2Fはフリーアドレススペースと回遊性のある計画としています。また、外来部門やフリーアドレスゾーンは、将来の増築や使い方の変化に合わせて変更可能となるよう、最小限の壁配置によりフレキシブルな空間構成としています。

水の貯留と、保水性のあるポーラスコンクリート及び屋根への山水による夏場の冷却効果

木造のメリットである軽量化による、地盤改良工法の簡易化と地中熱利用の検討



診察待合



予防接種待合



診察待合

# 「木の空間」をささえるサスティナブルな2つの技術

「縦ログ構法」「木造仮設の再利用」という2つの技術を使い、クリニックと薬局を計画しました。



縦ログ × 小児クリニック



縦ログパネルの壁で構成された室内空間

## 1・縦ログ構法

縦ログ構法とは、角材を一定の大きさに切り揃えて結束し、木の壁（パネル）を作る構法です。木の打放しの空間を体験することができ、横ログにはない新しい空間を作ることができます。このパネルひとつで構造・内装、断熱材の役割を果たす、単一多機能部材です。地元木材を使用し、地域の工場で作ることができるので、過疎化が進む地域の産業にも貢献しています。



ログパネル構造試験のようす



木造仮設再利用 × 薬局・跡地活用

2019年ログハウス仮設住宅の解体風景  
(福島県二本松市杉田農村広場仮設団地)



ログ仮設住宅の解体風景

## 2・木造仮設再利用

東日本大震災の仮設住宅として福島県内で利用された木造仮設住宅を解体し、再利用しました。



ログ材（木造仮設部材）の保管



ログ材（木造仮設部材）の再建築

<仮設時(住宅)>



<再利用時(薬局・コワーキングオフィス)>

